

防潮堤の説明会

今、市内各地で防潮堤の説明会が行われています。私は大島在住なのですが先日、内湾地区の説明会を聞きに行きました。大勢の人が来て、議論百出するかとの思いで見に行ったのですが、5、6名の方が発言しただけで、何事もなく予定調和のごとくあっさりと終了しました。

内湾は江戸の昔から漁港として風待ちの港として栄えてきた歴史あるところです。大島と云う自然の防波堤に守られて、明治昭和の津波でもさほど被害が無かつたはずです。

今、内湾に防潮堤は要らないでしょう。浮上式の防潮堤を作るにしても、50年後の科学技術が発達してからで十分間に合うと思います。今はやることは地盤沈下した所を一時も早くかさ上げすることではないのですか。魚町南町全体を数m高くして船の着くところを親水区域にして、防潮堤を作らずに景観を損ねない様に街作りが出来ませんか。

子供の頃、大島から船で街(まち)行くことは大きな出来事で、船が内湾に入ると角星や男山の建物が目に入り、気仙沼の街に來たとワクワクしたものです。

気仙沼の魚町と南町は大島の子供からすると大都会でした。映画館、嫌いな歯医者、食堂、本屋、なんでも有りました。大堀銀座、マンボ通りなどで高校生頃はよく遊びました。

この思いは大島だけではなく唐桑の多くの人にも、山間部の人達にも共通の思いではないでしょうか。

このほど、角星や男山の建物が保存されると聞きます。それらの建物は内湾の風景と一体のもので、それだけを残してなんの意味があるのですか。海から遮断され防潮堤と云う壁の傍に建て直されても、無残な遺物としか写りません。もう要らないと思います。

そんな遺物を言い訳のように残し、6mもの壁を内湾に張り巡らした所に誰が住むのですか。海が見えず、船の停泊、発着の風景が見えない所がどうして港と言えるのですか。

魚町南町の人達には「気仙沼を作ったのは俺たちだ」と云う誇りがあつたはずですよ。とくに魚町の人達は、その思いを今も強く持つているはずですよ。ですが、防潮堤を作ることには内湾の歴史を閉じることであり、自分たちの誇りを捨てる事だと思えます。

市長も小野寺代議士も

魚町出身でありながら、内湾を破壊し歴史に幕を閉じることに賛同しているのは理解できません。故郷を率先して守る立場の人が、率先して壊す立場で行動するのでは、気仙沼の將來がありません。役人の言いなりで政治家と言ええるのですか。市民が快適に住める環境を作るのが二人に与えられた役割であり、責任ではないのですか。

また多くの企業は内湾から始まっています。いま会社が内湾に無く、住むところが陣山館山であっても生まれ育つたところです。旧市内の街の人は内湾に6mもの壁を作られ、海が見えず、内湾の景観が破壊されるのをただ黙って見ているつもりなのですか。

「島の人間は黙つてろ」と言われても、大島浦の浜も7mの壁が計画されています。住人も観光客も壁に覆われた無機質な港を出船入り船する訳です。想像するだけでゾツとします。観光客は二度と来ないでしょう。観光は漁業と並ぶ気仙沼経済の柱です。内湾だけではなく市内全域の海岸を防潮堤で囲うことは自殺行為としか言えません。防潮堤を作ることに絶対反対です。

大島中仮設 熊谷雅裕